

数学オリンピック 財団通信

No.72
2026年 9 月15日
(公財)
数学オリンピック財団

▶▶ 第67回 IMO中国大会

全員がメダル獲得 金メダル 2 個、銀メダル 1 個、銅メダル 3 個

第67回国際数学オリンピック (The International Mathematical Olympiad : IMO) は、7 月10日から21日まで中国・上海で開催された。参加各国の団長団は10日に現地入りして大会準備を進め、13日には選手団が次々と到着、翌14日に開会式が行われた。コンテストは15日と16日の両日に実施され、コンテスト終了後には選手たちが地元を観光しながら、各国の代表選手との交流を深めた。

20日に閉会式が行われ、成績は以下のように、金メダル 2 個、銀メダル 1 個、銅メダル 3 個を獲得した。国別順位は10位であった。

日本代表選手の成績

メダル	氏 名	所 属 校	学年
金メダル	濱 川 慎次郎	ラ・サール高等学校	3 年
金メダル	安 藤 匠 吾	灘高等学校	2 年
銀メダル	原 龍之介	灘高等学校	2 年
銅メダル	濱 本 祐 輔	灘高等学校	3 年
銅メダル	伊 藤 成 希	開成高等学校	3 年
銅メダル	北 野 聡一朗	開成高等学校	1 年

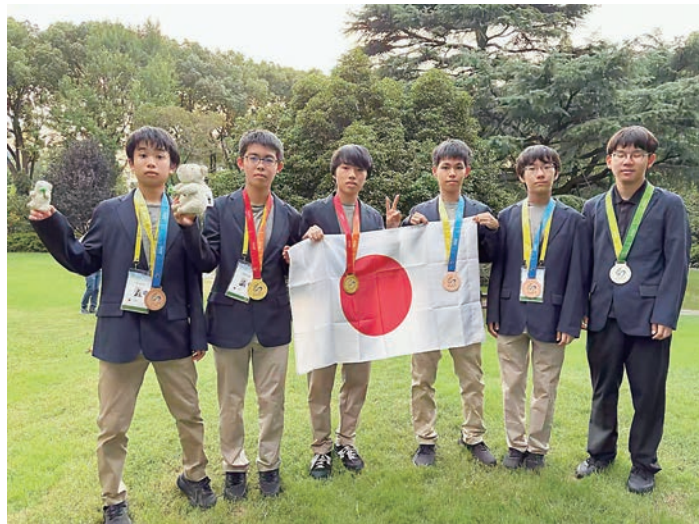
【結果概要】

○参加国数：117ヶ国・地域

○受験者数：666名 金メダル 55名、銀メダル 105名、銅メダル 189名、優秀賞 141名

○国別順位 日本の順位：10位

1. 中国	2. アメリカ	3. ロシア	4. シンガポール	5. ベトナム
6. 韓国	7. インド	8. 北朝鮮	8. イギリス	10. 日本
11. ブラジル	12. ルーマニア	13. カナダ	14. イラン	15. フランス



表彰式(日本代表選手)

IMO中国大会 日本選手の声

各選手に、IMO中国大会の感想を書いてもらいました。

- ① 中国大会の印象・感想
- ② 宿舎について
- ③ コンテストについて
- ④ 外国選手との交流について
- ⑤ 観光での印象
- ⑥ 今回のIMOの全体の感想

濱川 慎次郎 選手

- ①日差しが強く、日中は厳しい暑さでした。日が沈んでも蒸し暑さがあり、交流などの活動は基本的に屋内で行いました。
- ②空調など十分に整っていて過ごしやすかったです。食事は馴染みのある味のものが多く、困ることはありませんでした。
- ③コンテストは大きな体育館のようなところで受けました。机は十分大きく、室温もちょうどよくて、試験にしっかり集中できました。
- ④コンテストの問題・難易度・メダルボーダー予想などについて、様々な国の選手と話したりしました。以前よりも英会話力が向上しており、いろんな場面で積極的に会話ができ楽しかったです。
- ⑤エクスカッション1日目は上海ディズニーランドに行きました。絶叫系にはあまり乗ったことがないのですが、TRONというジェットコースターに乗ってみたいして良い思い出になりました。2日目は植物園と科学館に行きました。数学以外のことについて知るのも楽しいなと思いました。
- ⑥今回は3回目のIMO出場であり、私にとって最後の大会となりました。本当に楽しく、貴重な経験となったと同時に、たくさんの人のサポートを感じました。財団の皆様をはじめ、支えてくださった関係者の方々に感謝いたします。



上海空港(日本代表選手)

安藤 匠吾 選手

- ①言語が中国語であることと、暑すぎることを以外は日本の大都市と大体同じで、事前にSNSが使えないのではと言われていたが、実際には問題なく使えた。
- ②宿舎は上海高校の寮で、2人×3部屋に分かれた。上海高校の施設内にはサッカーなどのスポーツができる場所、ボードゲームができる場所、DDRみたいなゲームやマリカができる場所があり、とても楽しめた。
- ③Day1、分野はNGC。1Nを40分くらいで終え、2Gに取り掛かるも、何もわからない。複素座標で1時間くらい頑張るも、計算が重すぎて撤退。3Cは、とりあえず構成の予想はできて、後手側のいい感じの戦略を見つけて評価もできた。構成の証明に手こずっていて、残り1時間になってしまった。このまま1完ではまずいので、2Gに戻り、BKとACの交点、CLとABの交点をとるといっばい共円ができるので良さそうなことに気づいた。しかしそこから特に進捗はなく終わってしまった。
- Day2、分野はCAN。3番級がNで嬉しすぎるので逆順で解く。まず3Nの問題文を見ると、なんとIMOshortlist2013N5とほぼ同じであることに気づいた。これは解法を思い出すだけで解けると思い、1時間半ほどで完答。次に2Aを見ると、 $f(x) - x$ の値が2種類以上だと矛盾して、解けた(つもり)。1Cは、30分ほどで解けた(つもり)。2時間半で全完了たつもりになって見直しを始めると、5の議論に不備があったことに気づいて、修正した。その後、残り30分で4が丸々嘘だと気づいて、急いで修正し、残り1分で答案を書き上げた。本当に危なかった。
- ④私は英語ができないので、海外選手とまともな会話を交わすことは難しかったが、ゲームなどで少し交流をした。また、寮で同じ階にいたエクアドルの選手の1人がとても積極的に日本チームに話しかけてきて、良い交流になった。
- ⑤1日目はディズニーランドに行った。臨場感があり、映画の世界に入り込めるようなアトラクションが多くあった。猛スピードのジェットコースターがスリル満点でとても楽しかった。待ち時間がとても長かったので、そのときちょうど公開されていたIMOshortlist2025を暗算して時間をつぶした。2日目はまず科学館に行った。飛行機の飛ぶ仕組みや、現代科学の進歩の歴史などを見られて興味深かった。昼からは植物園に行き、色々な植物を見た。そこで飲んだオレンジジュースが美味しかった。
- ⑥試験はそこそこ満足できる結果で、試験以外の部分もとても楽しめたので良い経験になったと思う。ただ、海外選手と交流するためにはもっと英語力が必要だと痛感した。



上海中学校でのIMO人文字

原 龍之介 選手

- ①とにかく暑かった。建物内との温度差が凄まじく、一度部屋に戻ったら外に出るのが億劫だった。
- ②敷地が広い!!!
- ③一日目はそこそこうまくいったが、二日目で全てが崩れ去った。余り思い出したくもない。
- ④部屋にいる時間がそこそこ長く、また自分から他国選手に話しかけに行く気概もないため基本的に受け身での交流となってしまった。
- ⑤ナイトクルーズが中止になってしまったのが残念。
- ⑥イベントとしてあまりに楽しい。コンテストで勝てたらもっと楽しいに決まっているので、来年やってみせます。



エキスカーションでのIMO人文字



上海ディズニーランド

濱本 祐輔 選手

- ①当初想像していた通り、建物などのスケールが大きく、非常に都会だなと感じた。
- ②最初はホテルではなく寮と聞いて少し不安だったが、敷地が想像の何倍も広く、部屋にも思ったより色々置いてあったのでこんなに持ってこなくても良かったなと思った。
- ③・Day1
1Nはすぐ終わった。2GはKについてMと対称な点を取ったが進捗が得られなかった。気づいたら時間がほとんど残っておらず、別方針を考えるとBKとACの交点を取れば良いことにすぐに気づく。なんとか2点分の進捗を得たが、証明が書けず1点に。3Cは途中で構成の予想だけ少し考えたが、1点が入る保証もないのでP2を考えたほうが良いと思って諦めた。
・Day2
CANでとりあえず5Cが来なかった、かつ5AがFEであることに安堵。いざ解いてみると1時間半で2完できて、P6が解けないと終わると思っていたが、いくら実験しても何も得られずに終わってしまった。
- ④外国の人とサッカーをやったときは、地面がとても熱い中力強いシュートを撃っていて、体力差と体格差を感じた。他にも卓球やゲームなどを楽しくできた。
- ⑤ディズニーランドが非常に楽しかった。特にTRONが疾走感があって良かった。ただ、とても暑くて大変だった。ガイドの人と中国と日本の漢字の話をした。
- ⑥コンテストDay1は非常に憂鬱で、また風邪を引いたときはずっと寝込んでいたが、それ以外の全てを楽しめた。貴重な経験になったと思う。



ガイドのVivienneさんと日本代表選手

伊藤 成希 選手

①初めての海外ということでテンションが上がった。見慣れた漢字の中に簡体字特有の字が混ざっているのに異国情緒を感じた。

②宿舎は快適で、困ることはなかった。食事は本場の中華料理で、肉料理を堪能できた。

③緊張していたが、試験直前に隣のカザフスタンの選手が「Good luck!」と言って握手しにきてくれたので、緊張がほぐれた。

Day 1: P1は簡単だった。P2の幾何を何としても解きたかったが、初手から間違えて沼に嵌ってしまった。P3の前半部分で正しい方針を思いついたが、記述が雑で、本来4点取れたところが2点になってしまった。面白い問題だっただけに悔しさが残る。

Day 2: P4は目新しい三角形分割の問題だった。P5で時間を食ってしまい、P6は歯が立たなかった。試験後に周り感想戦をしたが、どうも周りのP5の出来が良く、21~22点では銅メダルだろうと勘づいた。結局、自分は22点で、銀メダルに1点届かず銅メダルだった。

④会場は上海中学という学校で、スポーツ強豪校でもあるらしく、実に様々な体育施設があった。海外の選手と卓球、バドミントンなどでたくさん体を動かして交流できた。サッカーではなんとかシュートを1本決めることができた。寮は二人部屋で、たくさんの選手が部屋に突入しにきてくれたので、そこでお土産を交換したり、けん玉を披露したり、会話したりした。

⑤上海ディズニーランドが最高だった。学生のガイドさんと、中国語と日本語で共通している漢字があるという話題でずっと盛り上がっていた。

⑥人生で一番といってもいいぐらい充実した一週間だった。関係者の皆様、ありがとうございました。



頑張るぞ!!

北野 聡一朗 選手

①東京よりも気温が高いと聞いて、ある程度覚悟していたものの、実際は案外耐えられないことはなかった。ただ、夜になっても昼の暑さが続くのが辛かった。時差は-1時間で、ちょうどいい遅れ方をしてくれた。試験が8:30~13:00と朝早かったので、この時差は本当にありがたかった。

②今回のIMOはほとんど上海中学(Shanghai High School)内で完結した。学生寮に2人1部屋で泊まったが、部屋の設備がちゃんとしており快適だった。また、食事の口合ものがほとんどで、なにより米が主食で知ってる名前の料理があったのが頼もしかった。上海中学はとても広く、その分自由時間の娯楽施設も充実していた。特に、レーザーライフルの体験ができる場所があり、それが楽しくて何回も行った。

③Day 1はNGCで1完。P2が難しかったという意見が日本選手内で一致して一安心。Day 2はCAN、特にP5が得意分野のFEだった。P4, P5はまあ適当に解けて2完のつもりだった。が、試験終了後、P4の大嘘が判明し、P5のみの1完、特に2日合わせても2完と、メダルすら貰えない可能性が出てきてとても怖くなった。結果としては18点の銅メダルでひとまず安心したが、P4がちゃんと解けていれば銀メダルと、とても悔しい思いをした。まあ、これも含めて実力なのだろう。

④試験Day 1後、寮の部屋でDay 2に向けて対策していたところ、突然エクアドル選手が部屋に入ってきた。突然の国際交流に身構えてしまったが、解いている問題の話や試験の感想などについて話し、なんとかコミュニケーションが取れた。それからというもの、しばしばエクアドル選手が遊びに来るようになり、お土産交換も行い、最終的に仲良くなれた。もちろん積極性があることに越したことはないが、それがなくとも、そして大して英語ができなくとも、充実した国際交流ができた。普段の生活ではなかなか出来ないことなので、本当に貴重な経験になったと思う。

⑤ディズニーランドは小学生以来行っていなかったので、久々に行けて新鮮な気持ちで楽しめた。アトラクションの待ち時間も他の日本選手と2025年のISLを解いたりし、有意義な時間を過ごせたと思う。

⑥1週間全体を通して、本当に貴重な体験ができた。来年はハンガリー大会であり、そもそもヨーロッパに行く機会がなかなかないため、ぜひ参加できるよう頑張りたい。



上海ディズニーランド

IMO中国大会役員の感想

団 長 黒田 直樹

団長団のホテルはとても豪華で、真夏を忘れさせる快適さだった。食事も素晴らしく、Jury meetingやコーディネーションもアクシデントなく進み、ここ数年でも指折りのよく運営されたIMOだったと思う。一方、遠足で訪れた上海ディズニーでは上海の酷暑を浴びせられた。

問題については出題決定時点では2番と5番の難易度差をかなり危惧していたが、結果的に正答者数は程よく、丁度良い難易度かつ良問揃いで、素晴らしいセットだったと思う。1日目で2番がかなり難しい幾何の問題だったために、日本が比較的得意な3番にあまり手が回らなかったのは選手にとって苦しいところだったかもしれない。それでも安藤選手、濱川選手の2日目での満点含め、日本選手はよく頑張ってくれた。原選手は1点差で金に届かずで悔しさも大きいと思うが、来年リベンジを果たしてほしい。

インド団長、マレーシア団長は選手時代に同じIMOに参加しており、選手時代の知り合いに団長として再会できたのはとても嬉しかった。また参加したいと思える素晴らしいIMOでした。ありがとうございました。



上海空港(日本代表団長団)



オブザーバーA 新井さん・沖さん・井本さん

オブザーバーA 新井 秀斗

今回は国際数学オリンピックの強豪の中国での大会であり、非常に準備された大会運営で非常に快適だった。大会運営に関わったスタッフには非常に感謝したい。

団長団としての仕事は団長の黒田さんが全てを把握して進めてくださり、コーディネーションなどでも大きなトラブルもなく行うことができた。

今年の問題は2番が日本のオブザーバーがかなり苦戦していた問題だったので選手の結果が心配だった。実際生徒も普段の2番に比べて苦戦していそうな結果だった。これからの数学オリンピックでの教育へこの反省を生かしたい。

ただ、2番に苦戦しながらも選手は大いに健闘し、結果としては非常に良かったと思う。

2023年の日本大会で私がガイドとして担当したモンゴルチームの選手が今年はオブザーバーとして大会に参加しており、近況を話したり交流することができて非常に嬉しかった。

今大会にオブザーバーとして参加できたことは私にとって大きな経験になった。大会に関わった全ての人に感謝したい。

オブザーバーA 井本 匡

流石中国という感じで、開会式からホテルまでかなり気合が入っているのを感じた。過去の大会であったと聞いていたようなトラブルも殆どなく、全体としてかなりいい大会だったと思う。後日本のプラムと同種の謎の果物が(日本のより)相当美味しかった。

採点、コーディネーションではMSがかなり厳密に定められていて、基本的には揉めるようなこともなくすんなりと点数が決まっていた。コーディネーターの方とも適切にコミュニケーションが取れたと思っていて、良かった。

結果から見ると日本役員が懸念していたほど2が難しすぎたり1, 4, 5が簡単すぎることなく、良いセットだったと思う。一方で日本人選手にとっては苦手な部類のセットだったと思う。

jury meetingの休憩やexcursionのディズニーなどで交流することができた。日本の好きなものについて話とかすることができて楽しかった。

excursionとしてディズニーに、コーディネーション終わりにobserver Aで上海市内と夜景の観光に行った。特に夜景は何となく聞いたことはあったものの実際に見てみると日本には絶対ないタイプの建物とかが輝いていて面白かった。電車に乗るたびに空港の手荷物検査みたいなことをさせられてそのせいで行列ができてたのも面白かった。

逆ボーダーが3人と悔いの残るセットであったと思う。セットとしても日本人が苦手なセットで、歯痒い思いであるのは否めない。それでも金メダル2枚を取ってくれたのは誇らしいことだと思う。

11日間という長期間、observer Aという立場から問題決定や翻訳、採点といったプロセスに携わったり、英語での交流や議論ができたのは本当に貴重な経験だった。大きなトラブルなどもなく、非常にいい大会だったと思う。

オブザーバーA 沖 祐也

団長とオブザーバーAは、問題を決定するために生徒より先に上海に到着し、上海の中心部から離れたホテルに滞在した。待遇はとても良く、各々に広い部屋が割り当てられて、美味しい食事をとることができた。上海ではWechatを使ってやりとりをしたのだが、Wechatの登録に中々上手くいかず、出国前にギリギリ登録することができた。

今年のIMOの問題について、どの問題も質は良かった。特に3番は素晴らしいと思う。1, 4, 5に比較的簡単な問題が、2, 3, 6に難問が置かれた。2番は日本の団長とオブザーバーA全員が苦戦した問題だった。そのため、試験前は難易度のバランスが壊れているのではないかと考えていたが、世界的な2番の出来は我々が思っていたよりは良かった。もしかしたら2番は日本人が苦手とするタイプの問題だったというだけなのかもしれない。

1日目の試験の日、オブザーバーAの新井と共に、朱家角のエクスカージョンに参加した。この日はとても暑く、気温が38度にもなっていたらしい。ガイドツアーの形式で、イヤホンからガイドの案内を聞きながら、課植園という所を中心に1時間程回ったのだが、参加者は暑さでぐったりとしていた。

試験終了後、団長とオブザーバーAは副団長とオブザーバーBの滞在するホテルに移った。こちらについても、食事は美味しく、用意された部屋は広かった。

選手の書いた答案は我々が採点し、コーディネーションを経て点数が決定される。今回は、団長、オブザーバーA、副団長、オブザーバーBが合計6人もいたため、ゆっくりと採点することができた。コーディネーションでは我々とコーディネーターで点数の交渉をするのだが、採点基準が細かく決まっていたため、問題なく点数が決まっていた。日本選手の結果は金2銀1銅3で、国別順位は10位と良い成績だった。惜しむらくは、このうち3人はあと1点あればより上位のメダルだった。

今回の中国大会は、運営がとてもしっかりとしていて、不便を感じることなく過ごすことができた。大会を支えてくださった関係者の方々に感謝申し上げたい。



団長・副団長・オブザーバーA・B

副団長 近藤 宏樹

副団長として今回のIMOに参加しました。IMOの海外派遣に同行するのは21年ぶりです。選手とともに出発し、コンテスト終了までは主に生徒と行動し、その後は団長たちとコーディネーションを行いました。

開催地の上海は、ちょうどIMO期間中に梅雨明けした日本と同様に暑い日々が続きました。世界各国から参加者を迎える開催都市らしく、街全体に活気が感じられました。選手が宿泊している上海中学へはシャトルバスで20分ほど。選手は観光プログラムを除いては基本的に学校の敷地内で過ごすこととなっており、安全面への配慮を感じました。日本と上海との時差は1時間であり、食事も白米が毎日提供されるなど日本人にとってはコンディションを整えやすい環境だったのではないのでしょうか。

コーディネーションは効率的な運営で、予定より早く案内されることもあり、2日目の午前中には一部の再審議を除いてほぼ終了していました。点数は日本の役員団の主張どおり認められたものの、メダルのカットラインの妙で一つ上の賞に届かなかった選手が多くなってしまったのは残念でした。1点の重みを改めて感じる大会でもありました。

教師ガイドの将さん、学生ガイドのVivienneさんの細やかなサポートをはじめ、よく準備された大会であり、役員として安心して業務に専念することができました。ご協力いただいた関係者の皆様に感謝いたします。



羽田空港(日本代表選手・副団長団)

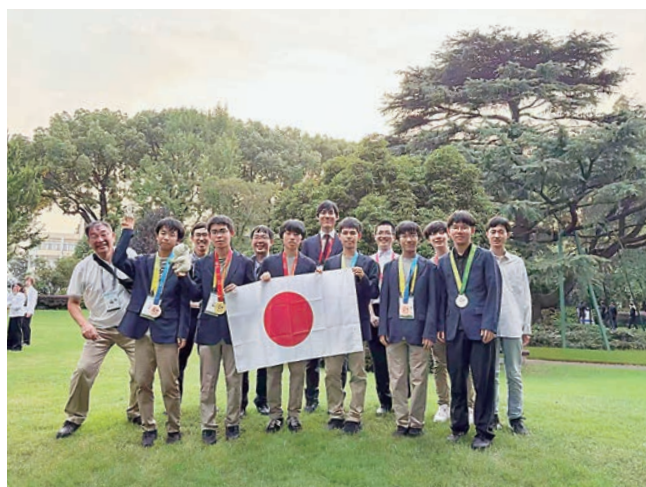
オブザーバーB 平山 楓馬

日中関係の冷え込みが叫ばれるようになって久しい。そうした情勢下での中国渡航には、少なからず不安感も募るものだ。実際はどうか。南京東路の一等地に鎮座する、巨大なちいかわショップ。あるショッピングモールで最初に目にしたのは、右手にCoCo壺番屋、左手に歌志軒、その奥にはコクヨの直営店。

近場での開催を、選手たちは正直、少し残念に思ったかもしれない。しかし、ビュッフェに見知らぬ物体ばかりが並び、それらをフォークでまさぐるしかない、そうではないほど嬉しいことはない。役員一同で訪れた何の変哲もない中華料理店の写真を見た後輩チューターから、「国際大会となると西洋的な情景をつい想像してしまうので、不思議な感じがする」と言われた。それもそのはず、2023年の日本大会は別として、彼らはアジアで開催された国際大会のことを知らないのだ。筆者が国際大会への憧れを本格的に抱き始めた10年ほど前は、ちょうどアジアへの派遣が相次いでいた時期だった。

毎年8月の夏季セミナーには、IMOやEGMOの選手によるゲテモノ的な性質を帯びたお土産がつきものである。例えば2022年の夏季セミナーでは、IMOノルウェー大会からもたらされた黒グミを筆者も食われたが、あれはもはや上手いとか不味いとかではなく、ただのゴムであった。かつてその種のお土産の定番はドリアン製品だったとよく聞かされた。たしかに、この時期の日本のスーパーであればスイカやメロンでも並べそうなポジションに、上海では大量のドリアンが鎮座していた。臭いを伴うという観点においてドリアンは特に悪質だが、近年ほとんど見られなくなっており、それは数学オリンピックにかかわる人間がいくばくか良心的になったからだと思っていた。

今年の夏季セミナーには参加しなかったのが、再びドリアンの風がもたらされたかは、わからない。



日本代表团

オブザーバーC 本多 浩一

私は選手と同じ動きで、プログラムに従った動きしかしていませんので、上海市の様子は、バス移動の車窓から見るくらいでしたが、東京よりゆったりとした街の配置、緑の多さが印象的でした。この時期の気候は、気温は東京とそう変わらないが、湿度は東京以上で、体が反応し、滝のように汗をかきました。

上海ディズニーランドは創立10周年の年に当たり、とても賑やかでした。上海市科学技術館は、東京なら有明の日本科学未来館といったところでしょうか。温室植物園は、東京なら夢の島熱帯植物館のイメージです。またリパークルーズが計画されていて、まさに出発寸前、ものすごい雷雨に見舞われ、クルーズは急遽中止。大陸的な豪雨の体験となりました。

上海は日本との時差1時間、緯度も鹿児島とほとんど変わらず、体調は合わせやすかったとは思いますが、暑さと湿度、食事の違いにより、後半の日程に入ってから、選手に疲れが出た感じはしました。そのような中で、コンテストの結果は、全員メダルを獲得し、国・地域順位で10位となったことは、十分に善戦したと思います。もう少しできたかもしれないなどという気持ちは、個々の選手には残る部分もあったかもしれませんが、その分今後に繋がるポテンシャルが得られたように思います。

私は、オブザーバーCとして、今回メイン会場となった上海中学校 (Shanghai High School) キャンパス内の教員用ドミトリに入り、全期間選手と行動を共にしました。上海中学校は、数学オリンピックの金メダリスト等を輩出する中国国内でも有数の中学校とはいえ、日本でいえば中等教育学校。そのキャンパスの広大さと、施設の充実度、緑豊かな環境は驚くばかりでした。また、IMO大会実施の主な部分を一つの中等教育学校が担えてしまうマンパワーと組織力に驚嘆しました。最近では、日本もIMO2023大会を開催しましたが、比較するにつけ、国家体制の違いがあるとはいえ驚きでした。

現在日本と中国には国家間の複雑な問題もあり、大会には緊張して臨みました。しかし、教師ガイドの草将先生や学生ガイドのVivienneさん方がとてもフレンドリーに接してくださり、日本国内にいるような感覚で過ごすことができました。最初は長いと感じていた8泊9日はあっという間に過ぎ去り、帰国を迎える時は一抹の寂しささえ感じました。世界は広いし、人間は理解しあえるものだという気持ちを呼び覚まされたIMOとなりました。

IMO2026 中国大会 日本代表団の役員

- ◎団 長 黒田 直樹 東京大学大学院数理科学研究科
- ◎副団長 近藤 宏樹 下関市立大学データサイエンス学部准教授
JCIMO委員長
- ◎オブザーバーA
 - 井本 匡 東京大学理学部情報科学科
 - 沖 祐也 京都大学理学部数学科
 - 新井 秀斗 東京大学理学部数学科
- ◎オブザーバーB
 - 平山 楓馬 東京大学大学院数理科学研究科
- ◎オブザーバーC
 - 本多 浩一 公益財団法人数学オリンピック財団事務局長

▶▶ 第38回 アジア太平洋数学オリンピック (APMO) 受賞者

2026年3月10日(火)東京、大阪の2会場でAPMO第22回国内大会を開催した。これまでのJMO代表選考合宿参加有資格者26名中、22名が受験し、その結果、上位10名の成績を日本代表の成績として主催国のベトナムに提出し、日本は金賞1、銀賞2、銅賞4、優秀賞3、国別順位3位の成績を収めた。個人成績及び国別の総合成績は、以下のとおりである。

●日本代表選手の成績

順位	賞	氏名	所属校	学年	順位	賞	氏名	所属校	学年
1	金賞	濱川慎次郎	ラ・サール高等学校	2年	6	銅賞	伊藤 亘輝	開成高等学校	1年
2	銀賞	原 龍之介	灘高等学校	1年	7	銅賞	宇梶 颯人	栄光学園高等学校	2年
3	銀賞	野下 晃平	栄光学園高等学校	2年	8	優秀賞	旗智 里奈	洛南高等学校	1年
4	銅賞	伊藤 成希	開成高等学校	2年	9	優秀賞	安藤 匠吾	灘高等学校	1年
5	銅賞	伊勢戸皓太	灘中学校	2年	10	優秀賞	北野聡一郎	開成中学校	3年

(以上10名、学年は2026年3月現在)

【結果概要】

○参加国数：43ヶ国・地域

○受験者数：397名 金賞 19名、銀賞 41名、銅賞 106名、優秀賞 173名

○国別順位 日本：3位

- | | | | | |
|----------|---------|--------------|--------|-----------|
| 1. アメリカ | 2. 韓国 | 3. 日本 | 4. インド | 5. シンガポール |
| 6. マレーシア | 7. ベトナム | 8. カナダ | 9. 台湾 | 10. 香港 |

▶▶ JMO 夏季セミナー

2026年度JMO夏季セミナーが、8月2日～8日の日程で山梨県の清里高原ヴィラ千ヶ滝にて開催された。参加生徒は代表選考合宿参加者の中からの希望生徒を含め合計28名で15名のチューターが指導にあたった。

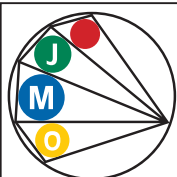
セミナーは、8班に分かれて数学書を読むゼミ、2名の先生方(早稲田大学理工学術院 三竹大寿先生、スタンフォード大学 時枝正先生)による講義など充実した7日間であった。



集合写真(宿舍前にて)

<ゼミで用いた書籍名>

- | | |
|------------------------------------|-----------------------|
| ① 安定マッチングの数理とアルゴリズム～トラブルのない配属を求めて～ | 宮崎修一 |
| ② フリーズの数学スケッチ帖―数と幾何のきらめき― | 西山享 |
| ③ Almost periodic functions | Harald Bohr |
| ④ 数理論理学 | 嘉田勝 |
| ⑤ 結び目の数学―結び目理論への初等的入門 | C. アダムズ |
| ⑥ 楕円曲線論入門 | J. H. シルヴァーマン, J. テイト |
| ⑦ 曲線と曲面の微分幾何 | 小林昭七 |
| ⑧ 連分数と楕円積分 | 杉山健一 |



数学オリンピック 財団通信

No.72 2026年9月15日発行

■編集・発行

公益財団法人 数学オリンピック財団
〒160-0022

東京都新宿区新宿7-26-37-2D

TEL 03-5272-9790

FAX 03-5272-9791

URL <https://www.imojp.org/>